

2019 年度 事業計画

慶應義塾は、福澤諭吉創業以来、民間有志の協力によって経営される「義塾」の伝統を守りながら、学問を修め、世の中の流行に惑わされず、主体的に世の中の進むべき方向を考える独立自尊の人材を社会のあらゆる分野に送り出してきました。

今、時代の変化の中で、義塾は研究力の向上、国際化の推進を柱に、新たな進化をめざしていますが、社会を先導する多様な人材を育成する使命は変わりません。優れた教育は優れた研究に支えられてこそ可能であり、優れた研究にはまた優れた人材が必要です。

幅広く奥行きのある教養教育と高度な専門教育を通じて、豊かな人間性と独創的な思考力を備え、変革を恐れず新しい価値観を創出しようとする人材を育成することが総合大学としての慶應義塾の使命です。

小学校から大学・大学院までの一貫教育の向上、伝統ある学問分野と先端研究の連携、財政基盤の確立と人材獲得を可能にする法人経営の強化を進めます。

慶應義塾は学問の府としての原点を忘れず、教学と経営の両輪が協力して、教育・研究・医療を強化し、社会に貢献する学塾としてさらなる発展をめざします。

慶應義塾長 長谷山 彰

2019 年度事業計画 — 基本方針と大綱

- I 教育・研究・医療の持続的な向上を図る。
- II 少子高齢化による社会構造の変化、グローバル化の拡大、テクノロジーの急速な進歩、気候変動・自然災害の多発など人類をとりまく諸問題の解決に、学問を通じて貢献する。
- III 教育・研究・医療環境を充実するために財政基盤の強化に努める。

これらの「基本方針」を基に、以下に事業計画の「大綱」を定める。

1. 先端技術の高度化が急速に進む社会において、総合大学の強みを活かし、自然科学と人文・社会科学の連携によって、テクノロジーと人間の調和がとれた人類社会の実現に貢献する。
2. 国内外から多様な学生が集まる学塾を構築し、日本社会を支え、世界で活躍する多様な人材を育成する。
3. 慶應義塾の多様性を確保し、特色ある教育を実践するために、一貫教育の充実に努める。
4. 海外の優れた研究者の受け入れ、海外の大学・研究機関との共同研究、研究者間の交流を推進するために、施設・組織など研究体制の充実に努める。
5. 社会に生じる新たな課題を解決できる高度な専門性と総合的な対応力を備えた人材を育成するために大学院教育の充実に努める。
6. 大学運営を高度化・効率化し、教育・研究・医療の向上を支援するために、IT化の促進とシステムの改修・構築に努める。
7. 教育・研究・医療の成果を世界に発信し、義塾の国際的評価の向上を図るとともに、義塾の学問の伝統を継承しつつ、文化を創造・発信する拠点の整備に努める。
8. 学生、生徒、患者、教職員等の安全の確保とキャンパス環境の向上を図るため、施設の改修、建設などを計画的に進める。
9. 教育の自律性、研究の自由を守るために、自己資金の拡大、充実に努める。
10. 日本各地で発生する自然災害の状況を踏まえ、教育・研究・医療を通じて社会の復興に寄与するとともに、被災学生の支援に努める。

以上

重点課題

1. グローバル本部開設による、スーパーグローバル事業をはじめ、教育・研究の国際化の一層の推進
2. 国内外における慶應義塾のブランド力向上のための全塾的な情報発信力の強化
3. 福澤諭吉記念慶應義塾学事振興基金および小泉信三記念慶應義塾学事振興基金などの強化に基づく教育・研究事業の推進と奨学金の拡充
4. 大学院生や若手研究者育成を目的とする、RA、研究奨励助教など、諸制度の拡充と奨学金の充実
5. 個人の主体性と選択を重んじながら、環境の変化や多様な価値観に即応できる柔軟で複線的な人事制度全般の充実、およびグローバル人材が活躍できる環境整備の促進
6. 一貫教育校における国際化のさらなる推進、少人数教育の実施および各校の教育における連携の強化
7. 医療安全管理体制の強化、高度医療技術の開発、高水準の臨床研究の推進を図るとともに、オリンピック・パラリンピックへの対応やAI ホスピタル事業を通じた新時代の医療人の育成
8. 高度化する世界の教育・研究・医療の潮流に対応できる確固たる情報基盤への投資の増大、および業務の見直しを含むシステムの改修・統合・構築を通じた組織運営の効率化
9. 知的財産に関する戦略の構築と研究成果の事業化・産業化の推進
10. サイバーセキュリティ体制の整備・強化
11. 教育・研究・医療のコンプライアンスに関する法務体制の強化
12. リカレント・生涯教育の推進と拡充
13. 学術資料展示施設の開設準備の加速化
14. 東京 2020 オリンピック・パラリンピックにおける英国チームの受け入れを契機とした、国際的なレピュテーションを向上させる施策立案と実施

1. グローバル本部開設による、スーパーグローバル事業をはじめ、教育・研究の国際化の一層の推進

■教育

【新規】

- (1) 経営管理研究科による、世界 10 か国のビジネススクールによるグローバルな経営革新を目指す「エグゼクティブ MBA コンソーシアム」への加盟
- (2) 英国に本部を置くソーシャルラーニングプラットフォーム FutureLearn における新コースの British Library との共同開発

【継続】

- (1) 4 学期制対応科目の開講。この枠組みを活用した継続性のある短期留学生受け入れプログラムの実施
- (2) ダブルディグリープログラムの実施
- (3) 質の高い留学生の受け入れ・派遣のため、世界各地の有力大学との活発な交換留学の推進と、新規の協定校開拓、プログラム開発
- (4) 医工薬連携最先端医療を米国で学ぶユタ大学短期留学プログラム
- (5) 総合政策学部、環境情報学部における国際化推進のための英語による授業体制「Global Information and Governance Academic Program(GIGA プログラム)」の実施
- (6) 総合政策学部、環境情報学部における北京外国語大学日本語学部在籍生の第 3 学年編入制度の実施
- (7) 看護医療学部における海外連携 4 大学との短期留学受け入れプログラムの安定化と共同研究の推進
- (8) 薬学部薬学科 6 年生・薬学研究科薬学専攻生の米国およびタイの提携大学における「海外アドバンス実習プログラム」
- (9) 薬学部における米国 4 大学薬学部生およびタイ王国コンケン大学薬学部生の日本薬学研修プログラムと本学学生との交流
- (10) 薬学部生のタイ王国薬学見学研修プログラム
- (11) 博士課程教育リーディングプログラムの継続（「超成熟社会発展のサイエンス」/「グローバル環境システムリーダープログラム」）
- (12) 経済学研究科・商学研究科・メディアデザイン研究科と「CEMS, the Global Alliance in Management Education」が実施する CEMS MIM (CEMS Master's in International Management) の継続的活用
- (13) 健康マネジメント研究科と University of Washington 看護学部博士課程との協定による Visiting Graduate Student Certificate of Attendance 取得制度の実施
- (14) メディアデザイン研究科、Royal College of Art/Imperial College London（ロンドン）、Pratt Institute（ニューヨーク）の 3 拠点 4 大学が協働して実施するトランス・ナショナルプログラム「Global Innovation Design Program (GID)」の継続
- (15) メディアデザイン研究科と Stanford University（教育学研究科、工学研究科）が協働して実施する「KMD-Stanford “Joint Project-Based Global Learning” Program」の継続
- (16) 塾生短期留学支援のための「創立 150 年記念奨学金海外学習支援」プログラムならびに優秀な外国人留学生受け入れのための「未来先導国際奨学金」の活性化
- (17) 留学生と日本人学生がともに暮らし学ぶ国際交流宿舎の環境整備と拡充

(18) ニューヨーク学院（高等部）における米国大学との高大連携プログラムの実施

■研究

【継続】

- (1) 国際発信力を高めることを目的としたインパクトファクターの高い論文誌への投稿推進補助
- (2) クロスアポイントメント制度を活用した海外副指導教授の招聘

■医学・医療

【継続】

- (1) 日本医学教育評価機構（JACME）の評価を踏まえた国際認証に基づく教育プログラムの実装
- (2) 国際共同研究（基礎・臨床）の充実、長寿研究を中心としたグローバルネットワークの形成（ワシントン大学セントルイス、カロリンスカ・インスティテュート、キングズ・カレッジ・ロンドン、ケルン大学、北京大学、グルノーブル・アルプス大学（UGA）、カリフォルニア大学サンディエゴ校（UCSD）、スタンフォード大学、ジョンズホプキンス大学等）、国際共著論文発表の促進
- (3) 医学部学生短期留学等海外研修（臨床・研究）の一層の充実と安全確保体制の整備を目的とした海外の大学等との連携協定のさらなる推進
- (4) 海外協定大学との連携によるジョイント・レクチャーシリーズの継続（ケルン大学、経済学部・研究科との合同遠隔レクチャー等）

■法人部門の取り組み

【継続】

- (1) 「スーパーグローバル大学創成支援」事業（2014年度～2023年度）の管理・運営ならびに事業後の自走化に向けてのロードマップの作成・検討
- (2) ダボス会議 GULF（世界学長会議）、APRU、APAIE などの海外大学コンソーシアムにおける活動の推進ならびに海外（大学・国際機関等）からの訪問・各種提案を踏まえた全塾レベルのグローバル戦略の企画
- (3) 海外の大学・機関との交流協定締結支援、グローバル・アドバイザー・カウンシル（海外の有力大学学長から構成される塾長諮問機関）の運営、スーパーグローバル大学創成支援事業の3つのクラスターに即した全塾横断的な国際会議・プログラム等の企画推進による戦略的パートナーシップの形成支援
- (4) ロンドンにおける日本留学フェア（Experience Japan Exhibition）の主催、研究大学としての国際合同プロジェクトならびに国際会議（APRU Population Aging Hub、eSports プロジェクト等）への参画および運営、中国の大学との合同イベント企画・実施、英国オリンピック・パラリンピック委員会との合同イベント企画、在日各国大使館ならびに海外大学訪問団等の受け入れ等を通じた、海外における義塾のプレゼンス向上のための企画・実施

2. 国内外における慶應義塾のブランド力向上のための全塾的な情報発信力の強化

■教育

【継続】

- (1) メディアデザイン研究科におけるキャンパス独自の研究成果発信の取り組み：“KMD FORUM”

- (2) 多様で優秀な学生獲得のための、国内向けウェブコンテンツの充実と情報発信の拡充
- (3) FutureLearn の 2 つの新規オンラインコースの開発・開講および既存 6 コースの再開講、ならびに FutureLearn コースと塾生向け学部・大学院カリキュラムとの連携推進

■研究

【新規】

- (1) 論文データベースを活用した関連海外研究者への研究成果情報配信
- (2) 研究者情報データベース (K-RIS) のリニューアル実装と充実

【継続】

- (1) Web ならびに SNS を活用した研究成果の国際的発信

■医学・医療

【継続】

- (1) 医学部ウェブサイトを通じた日本語・英語による情報発信力の強化（定期的最新情報の発信、インタビュー記事の充実等）
- (2) 研究成果の効果的なプレスリリースや、動画を活用した学部・研究科紹介等、広報活動の充実

■教育・研究・医療の環境整備

【継続】

- (1) 機関リポジトリ (KOARA) での学内学術成果の発信と、新たな慶應義塾研究者情報システム (K-RIS) とのシステム連携の推進
- (2) 貴重書のデジタル画像を国際標準の規格 (IIIF) に合わせて公開する「デジタルコレクション」のコンテンツ拡充と、共同研究、デジタルヒューマニティの研究基盤の充実
- (3) 志木高等学校のウェブサイトの計画的リニューアル (広報委員会) とそれを通じた継続的情報発信

■法人部門の取り組み

【新規】

- (1) VI (Visual Identity) ガイドラインの英語化
- (2) 「大学」および「一貫教育校」における学生・卒業生情報の一元管理の推進など塾員情報の充実を図る管理体制の構築

【継続】

- (1) 海外大学の広報担当者とのネットワークの構築ならびに海外大学の広報・メディア対応の調査による義塾のレピュテーション向上策の企画立案
- (2) IR (Institutional Research) によるデータ分析に基づいた世界大学ランキング対応の推進
- (3) ウェブサイト・SNS を活用した戦略的な英語による広報の企画立案、海外向け媒体 (Facts and Figures 等) および様式 (英語テンプレート) 等の制作を通じたブランディング、Keio Translation Team による事務文書の英語化の一層の推進による、英語による広報の質と量の強化
- (4) 義塾ウェブサイトリニューアルを契機としたコンテンツの発掘・発信とそれを維持する体制づくり
- (5) 『三田評論オンライン』を活用した発信コンテンツの拡充
- (6) 慶應オンラインへの導線を意識した「塾員 (卒業生) ホームページ」のサイト再設計と拡充
- (7) 慶應オンラインの認知度向上および登録の促進、ならびに慶應オンラインを活用したさらなる情報

発信および塾員相互間交流の活性化

- (8) 慶應メールの生涯メールアドレス化による、卒業生とのコミュニケーションの活性化

3. 福澤諭吉記念慶應義塾学事振興基金および小泉信三記念慶應義塾学事振興基金などの強化に基づく教育・研究事業の推進と奨学金の拡充

■教育

【新規】

- (1) 体育会活動の国際化、国際的人材の育成のためのより幅広い支援の増進

【継続】

- (1) 経済的困窮者のための「修学支援奨学金」の効率化、および充実に向けた検討
(2) 「学問のすゝめ奨学金」、ならびに成績優秀者のための奨学金に係る効果分析とその結果に基づいた制度運営の再検証
(3) 「東日本大震災」をはじめとする大規模自然災害被災学生に対する経済支援の継続
(4) 基金室、塾員センター、社会・地域連携室との協働による新たな寄付金の獲得

■研究

【新規】

- (1) 研究推進のための基金の活用推進（潮田基金）

■法人部門の取り組み

【新規】

- (1) 寄付者に対するタイムリーな情報発信と良好な関係（絆）の強化
(2) 維持会基金への寄付金収入増を目的とした仕組みの構築に向けた検討

【継続】

- (1) 福澤諭吉記念慶應義塾学事振興基金および小泉信三記念慶應義塾学事振興基金の拡充に伴う寄付金の募集

4. 大学院生や若手研究者育成を目的とする、RA、研究奨励助教など、諸制度の拡充と奨学金の充実

■教育

【新規】

- (1) 博士課程学生の指導のための国内研究機関や産業界とのクロスアポイントメント制度の検討

【継続】

- (1) 「研究のすゝめ奨学金」の継続、および充実に向けた検討

■研究

【新規】

- (1) 薬学部・薬学研究科における「Research Encouragement Award」の創設

【継続】

- (1) 若手研究者向け海外論文投稿支援
- (2) KGRIにおける Project Assistant Professor 等の雇用

■医学・医療

【新規】

- (1) 多様性のある人材育成のためのカリキュラム改訂

【継続】

- (1) 学部教育、初期研修、後期研修と一貫した医学教育ポリシーの確立と実施・支援体制の構築
(Informative な教育から Transformative な教育への教育体制の強化)
- (2) MD-PhD コースを含む研究医の育成の強化
- (3) 慶應義塾大学医学部人材育成特別事業奨学金および各種奨学金制度の一層の拡充とフォローアップ

■法人部門の取り組み

【継続】

- (1) 石井・石橋基金の活用を通じた事業推進

5. 個人の主体性と選択を重んじながら、環境の変化や多様な価値観に即応できる柔軟で複線的な人事制度全般の充実、およびグローバル人材が活躍できる環境整備の促進

■教育

【継続】

- (1) 年俸制を活用した外国籍テニユアトラック教員採用制度
- (2) 理工学部創立 75 年記念事業募金を原資とした国際人材育成基金・資金による、将来を担うグローバル人材の育成
- (3) 体育会活動の国際化による国際的人材育成の推進

■研究

【新規】

- (1) 研究のプレアワード、ポストアワードからアウトリーチまで対応すべく専門員 URA 制度ならびに特任教員制度の整備と充実

■医学・医療

【継続】

- (1) 診療支援部門・管理部門（医療事務）における人材確保
- (2) 専門職の資格取得奨励やマネジメント能力強化策（健康マネジメント研究科等の教育プログラム開

発への協力) の充実

- (3) コメディカルスタッフの総合的・組織的な人材開発の展開
- (4) 薬剤部と薬学部の人材交流による薬剤部職員の高度な専門性の引き上げ

■教育・研究・医療の環境整備

【新規】

- (1) 慶應義塾の教職員・学生・生徒・児童が互いの人格を尊重し、多様な価値観を認め、協力していく協生社会の実現を目的とした「ワーク・ライフ・バランス」、「バリアフリー」、「ダイバーシティ」事業の推進

【継続】

- (1) 湘南藤沢キャンパスにおける未来創造塾事業（5か年計画の5年目）による「滞在型教育研究の実践」

■法人部門の取り組み

【新規】

- (1) 国際発信力の高い研究者の雇用促進および次世代を担う若手人材の育成強化
- (2) シニア有期制度の積極的活用と、年代を問わず有為な人材が高いパフォーマンス力を発揮できる人事制度運用の促進

【継続】

- (1) 高度な教育・研究・医療を支える専門性と能力を備えた職員の育成
- (2) 現場のニーズに対応し業務の専門性を高める研修の実施
- (3) グローバル社会における大学の対応力を高めるための職員研修の実施
- (4) 国内外の優れた教育・研究者を確保するための人事給与制度の改革
- (5) 義塾の国際的レピュテーションの向上や外部資金の獲得・維持に寄与しうる「人事」制度改革
- (6) 義塾への貢献度に応じた役手当実現のための現行制度の精査と見直し

6. 一貫教育校における国際化のさらなる推進、少人数教育の実施および各校の教育における連携の強化

■教育

【新規】

- (1) 台湾高校生日本留学事業受け入れによる各高校の国際交流の活性化
- (2) 湘南藤沢高等部における第二外国語教育の拡充のための準備
- (3) 湘南藤沢中等部1・2年生におけるレベル別授業の細分化（少人数教育）の実施
- (4) 中等部におけるハワイ現地校（Iolani School）での研修プログラムの実施
- (5) JST ジュニアドクター育成塾（小学5年生～中学3年生対象の高度な科学技術人材育成プログラム）の一貫教育校における事業企画・推進

【継続】

- (1) 「慶應義塾一貫教育校派遣留学制度」における中学校段階以下の派遣実現に向けた調査・検討、および高校段階の派遣先拡充（米国 Choate Rosemary Hall）

- (2) 各校の一部教科における少人数教育導入に向けた調査・検討
- (3) 一貫教育校における次期校務システム構築による各校間の情報連携の促進
- (4) 高等学校における交換留学生の充実（英国ウィンブルドンの名門パブリックスクール「King's College School」、米国カリフォルニア州ロサンゼルス私立男子高校「St. John Bosco High School」、米国フロリダ州ジャクソンビル市の私立校「The Bolles School」との交換留学）
- (5) 高等学校におけるグローバルリーダー協育基金・資金の設立
- (6) 高等学校における Keio Senior High School Summer Program の実施
- (7) 志木高等学校における SGLI（Student Global Leadership Institute）への積極的参加
- (8) 志木高等学校における日韓高校生交流キャンプへの積極的参加
- (9) 志木高等学校独自の交流プログラム（豪州、台湾、フィンランド）の一層の充実
- (10) 女子高等学校における Rangi Ruru Girls' School（ニュージーランド）、Columba College（ニュージーランド）、St. Michaels University School（カナダ）との国際交流プログラムの継続、および新規国際交流プログラムの開拓
- (11) 湘南藤沢中・高等部における7か国12校との国際交流プログラムの実施
- (12) 普通部と Luostarivuoren Koulu（フィンランド）および Kolbe Catholic College（オーストラリア）との交流プログラムの継続（相互訪問、遠隔授業）
- (13) 中等部における年間にわたる英国現地校（Hockerill Anglo-European College、Wolverhampton Girls' High School、County Upper School）との交流プログラムの実施
- (14) 幼稚舎における Mohawk Day Camp（米国）、Punahou School（ハワイ）、英国サマースクール（英国）、Dragon School（英国）といった国際交流プログラムの継続
- (15) 横浜初等部における King's College Junior School および Wimbledon High School（Junior School（英国）との交換留学プログラム、St Paul's School（オーストラリア）でのホームステイ・プログラム、科学的な視点からアプローチするアイスランド国際体験プログラムの実施、ならびに海外滞在プログラムの開発
- (16) 横浜初等部における英語科（GC）全クラス人数の半減化
- (17) 横浜初等部と湘南藤沢中・高等部間の教科ごとの連携協議会の実施

■法人部門の取り組み

【新規】

- (1) 少人数教育の研究および各校の国際化を推進するための海外名門ボーディングスクール招聘教員等による模擬授業の実施

【継続】

- (1) 一貫教育校専任教員国外研修制度等によるグローバル化に対応する教員研修の支援（英国 Winchester College 教員研修プログラム、ハワイ大学交換協定に基づくハワイ大学マノア校派遣、海外学校視察団派遣ほか）
- (2) 学校間の垣根を越えた一貫教育校教員の連携および情報交換の促進に対する支援

7. 医療安全管理体制の強化、高度医療技術の開発、高水準の臨床研究の推進を図るとともに、オリンピック・パラリンピックへの対応やAI ホスピタル事業を通じた新時代の医療人の育成

■研究

【新規】

- (1) 臨床研究推進センターを中心とした臨床研究の充実と推進

■医学・医療

【継続】

- (1) グローバル展開を見据えた東京圏の国家戦略特区（医療分野）のための体制整備
- (2) オリンピック・パラリンピックへの協力をはじめとした、インバウンド向け医療サービスの提供と院内体制整備
- (3) 患者目線に立った医療サービスや接遇の提供に向けた教育研修強化と行動指針に沿った意識改革
- (4) 臨床研究中核病院として病院・医学部における臨床研究の推進
- (5) 革新的な医薬品・医療機器の創出拠点として、首都圏 AR コンソーシアム活動の推進
- (6) 横断的ながん専門医療人の育成と病院経営人材育成の推進
- (7) 1号館の Cell Processing Center 自立的運営体制の確立（再生・細胞医療の推進）
- (8) 臨床研究中核病院としての臨床開発の促進と橋渡し研究機能の強化
- (9) ゲノム医療実装のための体制整備

8. 高度化する世界の教育・研究・医療の潮流に対応できる確固たる情報基盤への投資の増大、および業務の見直しを含むシステムの改修・統合・構築を通じた組織運営の効率化

■教育

【新規】

- (1) 奨学金 web 申請システムの構築を通じた申請手続きの簡素化、ならびに、電子化される申請データの多角的分析を通じた奨学金原資の再配分の検討

■研究

【新規】

- (1) 文部科学省オープンイノベーション機構整備事業と連携した JST の OPERA プログラムによるイノベーション推進本部主導のメディカルヘルスケア領域産学共創プラットフォーム（PeOPLE 共創・活用コンソーシアム）構築の推進

■医学・医療

<収支改善に向けた取り組み>

【新規】

- (1) 部門運用ヒアリングを通じた人員計画の立案と最適な組織運営の検討
- (2) 収入確保と患者の利便性向上を目的とした祝日等休診日の診療日化の検討

【継続】

- (1) 適正かつ効率的な手術枠と入院機能の一体的運用の実施
- (2) 救急科、手術センター、ICU、HCUの機能と運用の見直しによる効率化と収益増の実現
- (3) 外来受付フロー改善、受診体制（救急医療体制・総合診療体制）の見直し、初診枠の増加、各診療科の紹介患者受入条件統一による初診患者数増加
- (4) 医療連携推進フォーラム等、前方連携の推進による初診外来患者・新入院患者の増加
- (5) 後方連携強化（地域連携病院拡大）と病床運用の効率化
- (6) コストマネジメントの改善
- (7) 問題状況の早期把握のための病院執行部と診療科の連携強化
- (8) 管理会計や診療情報の分析を活用した診療科別マネジメントの強化

<安全で質の高い医療サービス提供体制の確立>

【新規】

- (1) 病棟・診療科・医療連携推進部を中心とした効率的で円滑な病床運用フローの確立
- (2) 患者動線の改善と患者サービスの向上の実現
- (3) 滅菌管理部の新しい業務体制の整備
- (4) 食養管理室の委託業務の安定化とサービス品質の向上
- (5) AI、IoT、ビッグデータ技術を用いてAIホスピタル化に向けた施策を展開し、医療サービス提供の効率化と教職員の負担軽減を推進

【継続】

- (1) ブロック受付によるサービスの安定供給と受診枠見直し等による外来患者に最適な体制の構築
- (2) スペースマネジメントによる病院インフラ機能の確保と効率的な施設運用、機能の最適化
- (3) 病院機能の向上を目指した整備工事期間中の安全な患者動線の確保
- (4) 安全・安心・快適な医療のための具体的な施策展開

<高度先進医療と質の高いケアを先導する、研究マインドに富んだ医療人の育成>

【新規】

- (1) 教育コンテンツのデジタル化、ペーパーレス化の推進

■教育・研究・医療の環境整備

【新規】

- (1) クラウド型図書館システム（紙の蔵書と電子資料を一元的に管理）の早稲田大学との共同運用。それによる利用者サービスの充実、業務の効率化とコスト削減
- (2) 契約案件管理システムの構築（オープンイノベーション対象）
- (3) イノベーション推進のための管理区分会計システムの構築（オープンイノベーション対象）

【継続】

- (1) 研究基盤維持のため安定的な電子資源契約の確保
- (2) 高度ネットワーク・コンピューティング環境の基盤強化
- (3) 教職員の情報共有・電子申請等、事務業務の効率化にむけた情報化支援

■法人部門の取り組み

【新規】

- (1) 人事制度全般の充実の基盤となる、人事部における情報環境（諸業務システムなど）の構築への取り組み

9. 知的財産に関する戦略の構築と研究成果の事業化・産業化の推進

■研究

【新規】

- (1) 大学の研究成果としての知的財産権の確保・維持管理・活用に関する規程等の再整備
- (2) Technology Licensing Organization(TLO)機能の充実による、大学が保有する知的財産権の技術移転推進と大学発ベンチャー創出支援
- (3) イノベーション推進本部を中心としたイノベーションエコシステムの構築ならびに産学連携の推進と社会貢献
- (4) 株式会社慶應イノベーション・イニシアティブとの協働による大学発ベンチャーの成功事例加速
- (5) JST リサーチコンプレックス推進プログラムによる融合研究の実装に向けたディレクション強化と塾外リソース（コンサルタント）も活用した事業化・社会実装の実現

【継続】

- (1) 鶴岡、新川崎、殿町の各タウンキャンパスにおける先端的な研究の推進と新産業・新事業の創出
- (2) 湘南藤沢キャンパスにおける先端農業分野での静岡県との連携、健康情報分野での藤沢市との連携

■医学・医療

【新規】

- (1) 企業研究者受け入れの仕組みの再構築

【継続】

- (1) イノベーション推進本部メディカル・ヘルスケア領域の充実・強化（起業推進および支援体制構築の強化）
- (2) 職員、専門員 URA、その他専門スタッフの機能強化による組織的な産学連携・研究支援体制の確立
- (3) タウンキャンパスを活用した産学連携の戦略的展開
- (4) 知財教育、アントレプレナーシップ教育、イノベーション人財教育の充実

10. サイバーセキュリティ体制の整備・強化

■教育

【継続】

- (1) 理工学研究科、メディアデザイン研究科と情報セキュリティ大学院大学など全国 5 大学の連携によるセキュリティ分野における大学院教育「実践セキュリティ人材育成コース（Sec Cap）」の実施

■研究

【新規】

- (1) サイバーセキュリティの研究対象としての推進や情報共有・情報発信の強化

■教育・研究・医療の環境整備

【新規】

- (1) 志木高等学校における IT を専業とする企業からの派遣社員によるシステム管理（2018/11/1 より）

【継続】

- (1) より高度化するサイバー攻撃への対応策の強化
- (2) 塾内におけるセキュリティ対策組織やセキュリティインシデントへの対応体制の整備・強化
- (3) 情報セキュリティ関連規程・内規や各種ガイドラインの整備・拡充

1 1. 教育・研究・医療のコンプライアンスに関する法務体制の強化

■研究

【継続】

- (1) 研究倫理教育・研究コンプライアンス教育の推進
- (2) 研究不正ならびに研究費不正への適切な対応
- (3) 利益相反マネジメント体制の刷新、部門間連携の強化
- (4) 安全保障輸出管理体制の拡充と対応の整備

■医学・医療

【新規】

- (1) 医師の働き方改革に伴う診療体制等の効率化

<研究倫理>

【継続】

- (1) 臨床研究法の施行に伴う適正な体制の整備
- (2) モニタリングとコンプライアンス教育の充実・強化
- (3) 安心、安全な医療情報・臨床試料の二次利用のための環境整備、システム構築
- (4) 個人情報保護、法令順守、利益相反防止および被験者保護をはじめとした臨床研究倫理教育の強化
- (5) 動物実験、遺伝子組換え実験等の承認手続き効率化と法令順守の徹底

■教育・研究・医療の環境整備

【継続】

- (1) 学校現場で生じる様々な案件について、慶應義塾リーガルアドバイザーと連携しつつ、確固たる法的根拠をもって対応する体制の確立

■法人部門の取り組み

【新規】

- (1) 慶應義塾リーガルアドバイザー委員会および関係部門による、法務対応の連携強化を目的とした連絡会の設置
- (2) GDPR（欧州データ保護規則）をはじめとした、海外における法務関連動向の情報収集と各種対応への体制強化

1 2. リカレント・生涯教育の推進と拡充

■教育

【新規】

- (1) 社会人の多様な学習ニーズに応え、三田キャンパスで慶應義塾三田オープンカレッジを開講
- (2) JST リサーチコンプレックス推進プログラム終了を視野に入れた地域に根差したジュニア・学生・院生・社会人対象の人材育成プログラムの自立化

【継続】

- (1) 志木高等学校における校内自然観察会主催（2回/年）を通じた周辺地域の住民を対象とした生物・地学に関するリカレント教育（講座）の実施
- (2) 志木高等学校におけるクラブ活動（ラグビー、バスケットボール他）を通じた低学齢の児童へのスポーツ指導
- (3) 新たなリカレント教育構想の推進

■周年事業・社会貢献・地域連携

【継続】

- (1) 薬剤師の生涯学習支援を目的に薬学部生涯学習委員会が立案する公開講座の開催
- (2) 薬剤師認定制度認証機構が認証したプロバイダーとしての研修認定薬剤師の認定

1 3. 学術資料展示施設の開設準備の加速化

■教育・研究・医療の環境整備

【継続】

- (1) 慶應義塾ミュージアム・コモンズ建設計画の推進（2019年春着工予定、2020年夏竣工予定）
- (2) コンテキストネットワーキングによるデジタルミュージアム基盤の研究開発

1 4. 東京 2020 オリンピック・パラリンピックにおける英国チームの受け入れを契機とした、国際的なレピュテーションを向上させる施策立案と実施

■教育・研究・医療の環境整備

【新規】

- (1) パラリンピック英国チーム受け入れを契機とした日吉施設のバリアフリー化整備

【継続】

- (1) 東京 2020 オリンピック・パラリンピックに向けての英国選手団の事前トレーニングキャンプ受入および関連事業の展開

■周年事業・社会貢献・地域連携

【継続】

- (1) 東京 2020 オリンピック・パラリンピックにおける英国選手団の事前トレーニングキャンプ受入支援のための横浜市・川崎市との連携

■法人部門の取り組み

【新規】

- (1) グローバル本部との連携による IR と戦略的国際広報の展開

【継続】

<東京 2020 オリンピック・パラリンピック>

- (1) BOA、BPA、英国大使館、ブリティッシュ・カウンシル等の対英国側窓口としてのグローバル本部のリエゾン機能の強化
- (2) 義塾内の研究・教育・医療における日英連携事例についての海外広報の強化と英国側メディアとの連携
- (3) インクルーシブな環境の整備に関する BPA との連携の推進

1 5. その他

■教育

【新規】

- (1) 慶應義塾の「基本方針と大綱」に基づく事業計画の実施と PDCA (Plan-Do-Check-Action) サイクルに基づく内部質保証の実質化を目指した恒常的な取り組みの推進
- (2) 看護医療学部・健康マネジメント研究科におけるオリンピック・パラリンピックに向けた国際交流、人材育成のためのプログラムの検討
- (3) 看護医療学部・健康マネジメント研究科における学部大学院一貫 5 年教育の検討・準備

【継続】

- (1) 医看護 3 学部連携医学教育の推進による、グループアプローチ実現のための医学教育基盤整備
- (2) 医学部・薬学部高度医療教育システムの取組み
- (3) 理工学部、総合政策学部および環境情報学部と東北大学を中核とする全国 14 大学および産業界の連携によるセキュリティ分野における学部教育「成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成

(enPiT)の実施

- (4) 総合政策学部、環境情報学部における山形大学農学部および大学院農学研究科との単位互換制度の実施
- (5) 総合政策学部、環境情報学部における鶴岡工業高等専門学校との単位互換制度の実施
- (6) 看護医療学部における「看護学校教育モデル・コア・カリキュラム」をベースにした新カリキュラムの実施
- (7) 理工学研究科における産学連携の実践型人材育成を目指した長期インターンシッププログラムの推進
- (8) 理工学研究科、メディアデザイン研究科と情報セキュリティ大学院大学など全国5大学の連携によるセキュリティ分野における大学院教育「実践セキュリティ人材育成コース (Sec Cap)」の実施
- (9) 健康マネジメント研究科・経営管理研究科・大学病院における「ケースとデータに基づく病院経営人材育成」プログラムの実施 (文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム)
- (10) 健康マネジメント研究科における「がんゲノム医療を支える専門看護師コース」および「がんライフステージケア研究コース」の実施 (文部科学省 多様なニーズに対応する「がん専門医療人材 (がんプロフェッショナル) 養成プラン)
- (11) 未来がん医療プロフェッショナル養成プラン「薬学がん専修コース」の推進
- (12) データ関連人材育成プログラム「医療・創薬データサイエンスコンソーシアム」の推進
- (13) 社会の変化に対応する学部入試改革の検討

■研究

【新規】

- (1) Co-Funding 等を活用した海外研究資金の戦略的獲得
- (2) タウンキャンパス (新川崎・鶴岡・殿町) における産学官連携のさらなる推進

【継続】

- (1) 研究連携推進本部・イノベーション推進本部ならびに学術研究支援部門の連携による研究の入口から出口までの研究推進支援
- (2) 基礎研究から応用研究、社会実装までの研究費 (公的資金ならびに産業界との受託研究・共同研究資金等) の戦略的獲得
- (3) 医学部・薬学部連携による「免疫ホメオスタシス維持による長寿クラスターの基盤整備」の推進
- (4) 薬学部「創薬研究センター」の産学連携拡大のための研究基盤整備
- (5) 医工薬連携を目指した創薬研究基盤の発展および高度化

■医学・医療

【新規】

- (1) 2号館の一部スペースを活用した収益事業の安定化
- (2) 大阪大学との“適塾”連携体制の強化

【継続】

- (1) 新専門医制度に向けた組織の整備
- (2) 長期的将来構想に基づく新病院棟建設全事業完了後の教学スペースの強化と2号館の有効利用、白梅寮解体後の跡地プランの策定、学生用運動スペースの確保、事務スペースの集約化
- (3) アドミッションズオフィス機能の充実と入試制度改革の実行

- (4) 大型公的（競争的）研究資金の戦略的獲得並びに民間研究助成金の採択確度向上と新規開拓
- (5) 理工学部との医工連携研究の強化、文理融合教育の推進
- (6) 医療系三学部（医学部、看護医療学部、薬学部）の教育・研究連携強化
- (7) 新専門医制度に対応した慶應関連病院ネットワークを用いた専攻医教育体制の確立
- (8) 1号館（新病院棟）におけるクラスター診療の充実
- (9) 関連病院ネットワーク機能の強化
- (10) 各種機関とのより強固な学外ネットワークを築き、優れた人材の流動性が高まる仕組みの構築を推進
- (11) 医学部における財務体質の強化策の検討

■教育・研究・医療の環境整備

【新規】

- (1) JST リサーチコンプレックスプログラムを土台とした研究者・学生に魅力的なキャンパスづくりと研究環境の整備
- (2) 湘南藤沢キャンパスにおける学生の滞在環境の改善

【継続】

- (1) 大学（日吉）記念館の建て替え（2018年春建設工事着手、2020年3月竣工予定）
- (2) 日吉キャンパスの安心・安全・快適に向けた環境整備の強化
 - ・自然災害の未然防止のため、キャンパス内（下田地区を含む）の植栽・樹木や崖地の計画的整備
 - ・安心・安全なキャンパスライフのための警備・防犯体制の継続的な整備
- (3) 大学病院1号館（新病院棟）建設に伴う周辺整備工事等
- (4) 湘南藤沢キャンパスにおける未来創造塾建設（5か年計画の5年目）
- (5) 三田キャンパス図書館旧館改修工事（2019年6月完了予定）
- (6) 義塾の知的資産を生かした領域横断的な研究・教育用のデジタルコンテンツの制作
- (7) デジタルメディア技術を活用した塾内イベントの記録
- (8) 義塾のデジタルアーカイブの閲覧利用システム開発

■環境問題への取り組み

【継続】

- (1) 省エネルギー対策の継続的实施
- (2) 新たなエネルギー対策の検討
- (3) 慶應義塾学校林での植林・育林など環境教育活動の推進

■周年事業・社会貢献・地域連携

【新規】

- (1) 志木高等学校の75周年記念事業、「多様な『交際』ですすめる『数理と独立』の教育」の実践
- (2) 志木高等学校の多目的棟（小ホール付き）の建設計画推進
- (3) 幼稚舎創立145周年事業の実施（記念式典他）

【継続】

- (1) 湘南藤沢キャンパスにおける湘南台駅からの鉄道延伸計画の一層の推進のために、神奈川県、藤沢市と共に行うまちづくりの推進

- (2) 「慶應義塾 150 年史資料集」第 3 巻（諸統計資料集成）、第 4 巻（慶應義塾刊行物解題）の編纂
- (3) 薬学部附属薬局無菌調剤室の地域薬局への開放
- (4) 薬学部・体育研究所・薬学部附属薬局が連携運営する「健康づくり教室」による地域住民の健康維持・増進のサポート
- (5) 薬学部医療薬学・社会連携センター社会薬学部門と薬学部附属薬局が実施する地域住民の疾病予防・早期発見を目的とする血糖・コレステロール測定イベントの開催

■法人部門の取り組み

【新規】

- (1) 事業活動収支差額比率 6%程度の安定的確保
- (2) 塾内における SDGs（Sustainable Development Goals）の各指標に適合する活動の集約ならびに、それに資する社会貢献についての国内外への発信

【継続】

- (1) 信濃町キャンパス（大学病院・医学部）における経営改革の継続、新病院棟完成後の収支改善
- (2) 補助金や外部資金のさらなる獲得推進と新たな財源確保
- (3) 収支改善に向けたさらなる予算の見直し
- (4) 慶應義塾と関わりのあった教員、研究者との継続的な関係の維持および深化
- (5) 慶應義塾関係者の人的情報の統合的な収集・管理・運用

中期計画について

慶應義塾はかねてより、義塾の「基本方針と大綱」（前掲）に基づく事業計画を年度ごとに策定し、諸施策の立案と実施に努めてきた。2014年7月、評議員会において塾長から「世界に貢献する研究大学としての慶應義塾の方向性」が示され、教育・研究・医療におけるグローバル化は一層推進されることになった。その重要な一歩として、同年9月、文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援事業」の採択を受けるに至った。

スーパーグローバル事業を実現するための義塾が公約した、さまざまな数値目標を着実に達成するためには、同事業の誠実な推進のみならず、近未来に備えた慶應義塾のあり方を広く検証し、不断に改革していかなければならない。そこで、これからの義塾の歩みを段階的に区分し、それを大胆かつ着実に実行することが望ましいと考え、下記のような中期計画を策定してきたところである。

第Ⅰ期中期計画（2015-2016年度）については、平成30年2月22日に発表されたスーパーグローバル大学創成支援事業中間評価結果はAという評価がなされた。

第Ⅱ期中期計画（2017-2019年度）についても、第Ⅰ期中期計画が成し遂げた実績を基礎として、「広報」、「国際化」、「人事」を特に重点領域としつつ、スーパーグローバル事業の推進・実現が強くうたわれている。また、同事業の核である3つのクラスターによる高度で学際的・国際的な教育・研究の成果を広く世界に発信する基盤を再構築、および積極的な情報発信の強化も推進されてきた。

本事業計画で示した14の「重点課題」、そして「個別事業方針」は、この第Ⅱ期中期計画を課題・目標として具体化したものである。本中期計画の最終年度に当たる2019年度は、これらの重点課題と個別事業方針という目標達成を目指していくことになる。同時に、目標の達成度を把握するための点検・評価作業の適切な実施も予定されている。